

大学設置支援室 information

NEWS

お困りごとを「学生と一緒に」解決しませんか？

今年4月に開学する武雄アジア大学では、課題解決型学習（*PBL）を実施されます。
「地域のお祭りを活性化する手法を一緒に考えてほしい」「商品・サービスの開発にアイデアが欲しい」「ボランティアで地域に出向いて欲しい」など、地域等でお困りごとがあれば、是非ご相談ください。

*PBLとは？ - Project Based Learning

学生自ら社会課題を見つけ、解決策を考え、実行していく社会参加型の授業

【相談はコチラ】

◆武雄サテライトオフィス
（武雄商工会議所2階：武雄町大字昭和1-2）

※開設日については
ホームページにて
お知らせ

◆学校法人旭学園
新大学設置準備事務局
☎0952-37-0203



▲武雄アジア大学
ホームページ

武雄アジア大学 ひとくち講座

武雄アジア大学では「地域理解」「国際理解」「経済・経営」など幅広い学問分野を学ぶことができます。4月の開学を前に、武雄アジア大学の教員からさまざまな分野のお話を「ひとくちサイズ」でお届けします。

【仏像はどうして古美術なのか？】

講師 井手 誠之輔 教授

【地域理解・東アジアの美術文化論などを担当】



古い仏像が美術展で展示されることがあります。1990年代頃までは会場に並ぶ仏像の前にお賽銭を見かけることがありました。祈りの対象の仏像がどうして美術品なのでしょう。

美術は古今東西の人類に普遍的な営みとして理解されます。しかし、日本をはじめ中国や韓国でも、近代に至るまで美術という言葉はありませんでした。1873年のウィーン万国博覧会に日本がはじめて国として参加するにあたり、ドイツ語による出品分類の翻訳語として誕生したのが美術という言葉だったのです。

江戸時代では、古物を立派で正統とみなす儒学や国学の考え方が支配的でした。古典漢文で学ぶ古の聖王や神々が登場する神話の世界を理想とする考え方です。博物館施設に今も博古館、集古館、徴古館などの名称が多いのは、その端的な顕れでしょう。それまで優位であった古に新たに生まれた美術を結びつけた古美術とは、二重に価値づけされた言葉なのです。

祈りをこめて造られた仏像は、秘仏とされることで霊力を高め、古物とされることで理想を伝え、美術として喜びを分かち、国宝や重要文化財として共有の文化遺産となっています。仏像は、さまざまな価値や文化の違いを越境しながら、今も確かに生き続けているのです。ものの言わぬ仏像から、その越境の旅について聞き出してみてもはどうでしょう。その静かな昔語りには、美術の歴史から異文化を学ぶ醍醐味があるでしょう。

次回の「ひとくち講座」もお楽しみに！

武雄アジア大学 市民講座シリーズ

申込不要
参加無料

【第10回】「公民連携とまちづくり～スモールコンセッションの事例を通して～」

講師：(株) 地域・PPP 総合研究所 代表取締役
国土交通省 PPP サポーター

山本 英治 氏

日時：1月17日（土）13:00～14:30

場所：市役所1階ホール

学校法人旭学園 新大学設置準備事務局
☎ 0952-37-0203

主催：学校法人旭学園 共催：武雄市